

一生涯を通じて、U 1 2世代がバスケットボールに取り組む意味とは？

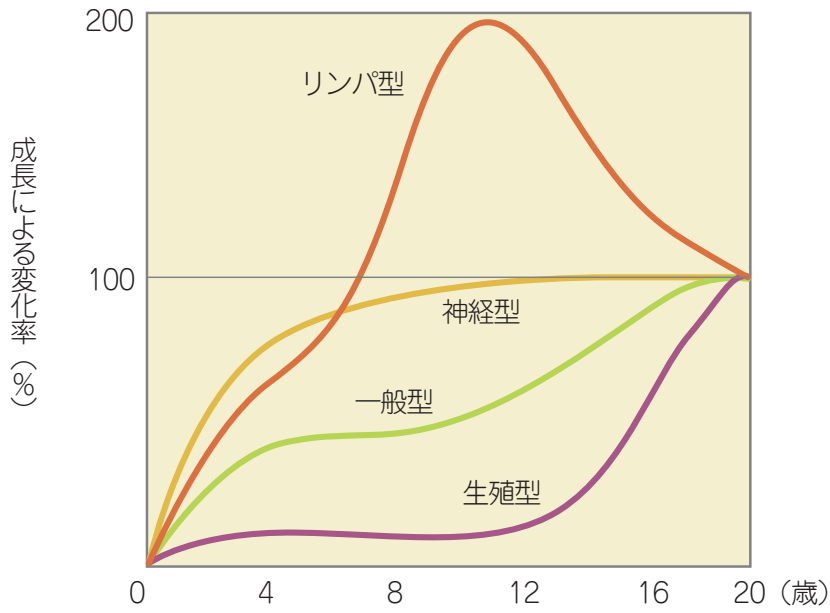
U 1 2世代の子どもたちが、バスケットボールに取り組む意味を考えてみましょう。これまでも身体の発達における運動の刺激の良し悪しについて議論されてきましたが、まだまだ十分とは言えません。ここでは、真摯に子どもの心の成長にフォーカスして考えていきます。

まず、「発達段階」という言葉をご存知でしょうか。子どものみならず、人間は一生を通じて成長していく生き物です。成人（大人）に至って身体の発達はピークを迎え、その後は徐々に衰えていきます。身体各機能は、全てが歩みを同調させて発達していく訳ではありません。スキヤモンの発育発達曲線に見られるように、身体機能は「時間差」で発達していきます。そして、U 1 2世代の子どもたちにとって、この時期までに「神経系」の発達が最もフォーカスされるべき発達課題と言えます。すなわち、この発達段階までに、いかに素早くバランスよく動けるか、そのための運動をどのように経験してきているのかを問うこととなります。

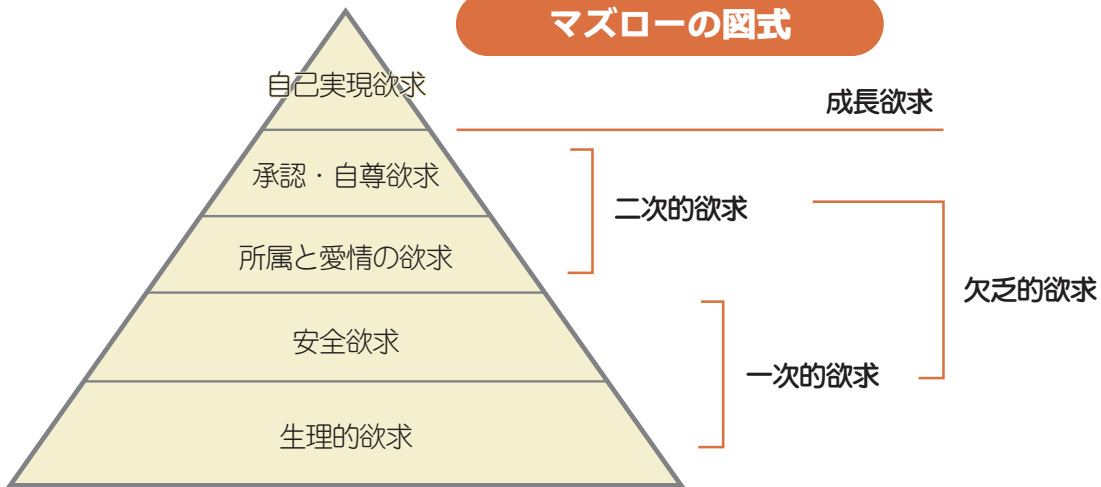
一方、心は年齢を重ねていくなかで、徐々に成熟していきます。マズローやエリクソンの図式を参考にすれば、心は「階段状」に発達していくと理解することができます。すなわち、今、現在の発達課題を解決していくことは、次の発達段階での発達課題を解決していくためのレディネス（準備）になるわけです。U 1 2世代の子どもたちは、この図式であれば「主体性（自分で選ぶ）」と「勤勉性（努力を継続する）」といった発達課題に直面しています。そこでの課題解決のあり方が、その後の「アイデンティティ形成（自分らしさの獲得）」に大きな影響を与えます。そして、この「主体性」や「勤勉性」の礎には「基本的信頼（人を信頼する）」や「自律性（自分のことは自分で）」といった発達課題の克服が、先に求められることです。

このようにU 1 2世代の子どもたちの心の成長にフォーカスするとき、バスケットボールを通じて、将来の心の成長の礎を築いていると認識すべきであって、コーチも保護者も、子どもと関わる際に、子どもは大人のミニ化ではなく、子どもの視線で捉えていくことが望ましいです。すなわち、大人は子どもの未来に責任を有しているわけですから、その自覚のもとに子どもの成長を見守ることが肝心です。

スキヤモンの发育発達曲線



マズローの図式



エリクソンの図式

